グラフィック・メディスン®
Graphic Medicine

グラフィック・メディスンの代表作『テイキング・ターンズ』出版のご報告

クラウドファンディング応援コメント抜粋集『テイキング・ターンズ』が繋ぐバトン

HIV／エイズはマンガの中でどのように描かれてきたか　原 正人 サウザンコミックス編集主幹／フランス語翻訳家

『元気になるシカ!』出張版　藤河 るり マンガ家

日本語で読める海外医療マンガ案内　森﨑 雅世 海外コミックブックカフェ「書肆喫茶mori」店主

GMな人びと　小比賀 美香子 医師

Comic Nurse®　a.k.a. MK Czerwiec

特集 グラフィック・メディスンガイド30選

0 issue
Nobember15th 2021

一般社団法人 日本グラフィック・メディスン協会

グラフィック・メディスン®
Graphic Medicine

0 issue
Nobember15th 2021

CONTENTS

03 会誌『グラフィック・メディスン』創刊にあたって 代表者ごあいさつ ---- 日本グラフィック・メディスン協会代表 中垣 恒太郎

04 グラフィック・メディスン代表作 『テイキング・ターンズ』出版のご報告

06 クラウドファンディング応援コメント抜粋集 『テイキング・ターンズ』が繋ぐバトン

寄稿
10 HIV／エイズはマンガの中で どのように描かれてきたか ---- サウザンコミックス編集主幹/フランス語翻訳家 原 正人

15 『元気になるシカ!』出張版 ---- マンガ家 藤河 るり

16 日本語で読める海外医療マンガ案内 ---- 海外コミックブックカフェ「書肆喫茶mori」店主 森﨑 雅世

20 GMな人びと ---- 医師 小比賀 美香子

22 Comic Nurse® a.k.a. MK Czerwiec

23 特集 グラフィック・メディスンガイド30選

会誌『グラフィック・メディスン』創刊にあたって
代表者ごあいさつ

日本グラフィック・メディスン協会は、2021年に『日本の医療マンガ50年史――マンガの力で日本の医療をわかりやすくする』（さいかす）を刊行することができました。50年におよぶ日本の医療マンガ100作品に加え、海外の翻訳10作品のレビューを収録しました。さらに、医療現場におけるグラフィック・メディスンの実践例を紹介しています。

関連企画として、世界のマンガを翻訳で紹介するレーベル「サウザンコミックス」第2弾として、グラフィック・メディスンの代表作、『テイキング・ターンズ――HIV／エイズケア371病棟の物語』をサウザンブックス社から刊行します。

『テイキング・ターンズ――HIV／エイズケア371病棟の物語』（原書は2017年刊行）は、グラフィック・メディスンの提唱者の一人、MK・サーウィック自身が看護師として1990年代のエイズ・パニックの時代にHIV／エイズケア病棟に勤務していた体験を描く回想録です。治療法の確立によりHIV／エイズケアに特化した専門病棟は役目を終えることになるのですが、その後、作者は「コミックナース」の筆名でマンガを発表していき、2007年からはグラフィック・メディスンの活動を開始し、現在に至るまで中心的役割をはたしています。

このグラフィック・メディスンの代表作を翻訳で紹介できますことをとても嬉しく思っています。

このプロジェクトを通じて、医療人文学、セクシュアル・マイノリティやHIV／エイズにまつわる支援活動、マンガの実作者や書店経営者など、さまざまな方々との新たな出会いがありました。

本誌創刊はグラフィック・メディスンに関心を抱く方々を「繋ぐ」新たな可能性を探るものです。本誌がまた新たな出会いのきっかけとなりますことを祈っております。

2021年11月11日
中垣 恒太郎

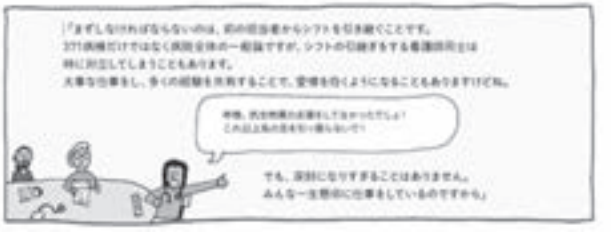
グラフィック・メディスンの代表作
『テイキング・ターンズ』出版のご報告

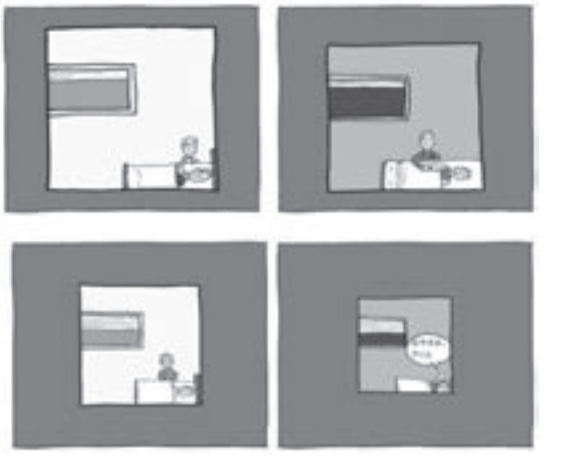
2021年3月にクラウドファンディングを見事達成した
『テイキング・ターンズ――HIV／エイズケア371病棟の物語』（原書は2017年刊行）
が無事完成の運びとなりました。
本作を出版するサウザンコミックス（編集主幹 原正人氏）は
世界のマンガ文化の多様性を紹介するレーベルです。
本作は、グラフィック・メディスンの代表作である以前に、マンガ表現として、
そして、ケアする者とケアされる者を描く医療現場の物語として、
ゲイコミュニティおよびHIV／エイズをめぐる記録として、
さまざまな読みどころに満ちています。

翻訳者代表メッセージ

クラウドファンディングで応援していただいた477名の皆さま、サウザンコミックスの原正人さん、デザイン担当の渡辺将志さん、編集担当の穴水菜水さん、ありがとうございました。さらに新しい出会いがありますことを願っています。

中垣恒太郎





原作者 MK・サーウィックからのメッセージ

Hello to my Japanese readers! Thank you for your interest in my work and Graphic Medicine. It is my hope that in reading Taking Turns you will have insights into the hard work of caring during crisis. My book tells the story of a hospital unit created in Chicago, IL, USA to care for patients during the crisis years of AIDS. Today we face another crisis. There are many differences with this virus, but the work of caring does not change. It is exhausting, and the people who do this work do so at great personal sacrifice. Here are some of those stories, rendered in the medium of comics, which helps us to communicate in complex ways and absorb those stories deeply. I look forward to the day when I can perhaps safely meet you in person!

Feb. 2021
MK

日本の皆さん、こんにちは!

私の作品とグラフィック・メディスンに興味を持ってくださりありがとうございます。『テイキング・ターンズ』が、危機の時代におけるケア労働のあり方を考えるきっかけになればと願っています。私のこの本は、エイズ危機の時代にシカゴに実在した、HIV／エイズ専門病棟の物語です。私たちは今現在、別の感染症の危機に直面しています。コロナウイルスとエイズはまったく別のものですが、ケア労働のあり方については変わりません。心身を消耗させるケア労働のあり方は同じです。ケア労働に従事する人たちは皆、個人的な犠牲を多く払いながら取り組んでいます。『テイキング・ターンズ』がマンガで表現されていることによって、コミュニケーションの複雑な機微を理解でき、物語をより深いところで実感してもらえることでしょう。多くの皆さんに私のこの本が届きますように。

いずれ日本の皆さんと安全な形で直接お目にかかれますことを楽しみにしています!

MK

三村 尚央さん

シリアスな物語が写実的な劇画調でなくこのようなタッチで描かれていることで、かえって物語がリアルに読者に伝わりやすくなっている

千葉工業大学教授。関心分野はイギリス文学（カズオ・イシグロなど）および記憶の文化。主な著書に『記憶と人文学――忘却から身体・場所・もの語り、そして再構築へ』（小鳥遊書房、2021年）、『カズオ・イシグロと日本』（共著）（水声社、2020年）がある。

やまだ ようこさん

『テイキング・ターンズ』は、グラフィック・メディスンの古典というべき本。病いや立場や情況の違い、社会・文化・歴史的文脈を超えて多くの人々の「現在」にひびき、新しい見方を生み出しつづける力、文脈を超える生成力をもっている。

京都大学名誉教授。立命館大学 OIC総合研究機構上席研究員。ものがたり心理学研究所長。専門は、ナラティヴ心理学、文化心理学、生涯発達心理学。

小森 康永さん

一人称で実に親密に語られたその物語は、彼女の看護師としての成長物語であり、その病棟の物語であり、もちろんそこで死に、生き残った患者や家族の物語でもあるわけです。だから、今や医療の中心になった看護師にまずもってしっかり読んでもらいたい。

精神科医。臨床心理士。日本家族療法学会編集委員長。現在、愛知県がんセンター精神腫瘍科部長。

大北 全俊さん

『テイキング・ターンズ』は、時に過剰な物語性を負わされてきたHIV/AIDSの世界に対して、静かに注意を向けさせる、そういう力を持っている。

東北大学大学院医学系研究科准教授（医療倫理学分野）。哲学・倫理学の視点から HIV/AIDS をはじめ、医療・公衆衛生領域の事象についての教育や研究に携わっている。

①医療人文学

グラフィック・メディスンの理念の一つに、医療人文学として分野を横断した連携がある。一つの作品を異なる見地から共有する試みもぜひ実施してみたい。

クラウドファンディング応援コメント抜粋集
『テイキング・ターンズ』が繋ぐバトン

皆様、応援本当にありがとうございました。

『テイキング・ターンズ』のクラウドファンディングをみると、支援してくれた人びとの多様さに驚く。
サウザンコミックスのプロジェクトを通してさまざまな方々と接点を得られたことが、
プロジェクト達成よりも大きな収穫であったかもしれない。

「応援コメント」出典: https://greenfunding.jp/thousandsofbooks/projects/4345

小比賀 美香子さん

医療従事者や患者さんが淡々と描かれている、だからこそ、余韻と力を感じる作品。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科総合内科学分野講師（医師）。専門は内科、糖尿病。2018 年 6 月から現職。患者家族・遺族の経験を持つ。

田亀 源五郎さん

当事者の回想ならではの豊かなディテールが目に留まった。それが飾り気のない作風で淡々と語られるのも、まるで誰かの絵日記を読んでいるようで、不思議な魅力を感じる。

マンガ家、ゲイ・エロティック・アーティスト。アダルト向けゲイマンガの代表作は『銀の華』『君よ知るや南の獄』など。初の全年齢層向けマンガ『弟の夫』では、第 19 回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞など国内外で数々の漫画賞を席巻。アーティストとしては主に海外で活動している。

「Bavuah」
井川アティアス翔さん、戸澤典子さん

1つはエイズに罹った患者を1人の人間として最後まで尊厳を持って接してきたユニット371というコミュニティの話であり、もう1つが人間にとって「死」と「死んでいくこと」が違うという点です。

イスラエルで英語教師をしながら日本とイスラエルのビジネスサポートをする井川アティアス翔と東京大学大学院でイスラエルのアメリカ・ユダヤ人移民を研究する戸澤典子からなるマンガ制作ユニット。

②アート・表現

グラフィック・メディスンは、何よりもヴィジュアル・アートである。
表現に携わっている方から、作品がどのように見えるかも
ぜひうかがってみたい観点だ。
世界のコミックス文化の中で作品を捉える視点も重要である。

特集
グラフィック・メディスン ガイド30選

選＝アリス・ジャガーズ、マシュー・ノウ、解説＝中垣恒太郎

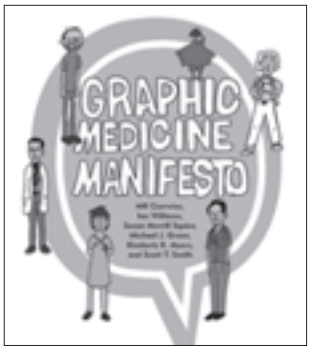
英語圏グラフィック・メディスン学会の中心メンバーである、マシュー・ノウ（ハーバード大学医学大学院図書館司書）および健康科学分野の専門図書館司書であるアリス・ジャガーズによる「グラフィック・メディスン基本図書リスト」（“Essential Graphic Medicine: An Annotated Bibliography”）が2021年2月に発表されました。グラフィック・メディスンの観点から基礎文献となる作品を選出し、共有しようという狙いによるものです。英語圏を中心にした学会であることからも、英語圏に偏りがあるものですが、学会自体は国際性を探っている段階にあります。日本で発展している「医療マンガ」の豊かさに比して、このリストで選ばれている作品の多くは「グラフィック・メモワール」と呼ばれる回想録が中心です。日本の医療マンガとの比較、また、英語圏のグラフィック・メディスン学会が捉える「グラフィック・メディスン」のあり方を探る上で参考になることでしょう。

グラフィック・メディスンの理論と実践

『Graphic Medicine Manifesto』

『グラフィック・メディスン・マニフェスト――マンガで医療が変わる』日本語翻訳版あり

2007年からスタートしたグラフィック・メディスンの中心メンバーによる理論と実践の基本図書であり、医療人文学の成果となる専門書である（マンガも用いられているが、マンガ作品ではない）。グラフィック・メディスンという新しい運動がどのような背景から、何を目指して発足したのかがマニフェストとして示されている。マンガを通して医療を取り巻く環境を変革しようとするグラフィック・メディスンの思想、具体的な実践方法が盛り込まれている。「一般患者」としての概念ではなく、「個」の症例に向き合う姿勢を示す運動であり、言葉では捉えきれない繊細な領域をヴィジュアル表現で捉えようとする試みである。さらに、日本の医療およびマンガ文化を取り巻く土壌で、どのようにこの概念を応用できるかが新たな課題となるであろう。



Author：MK・サーウィック 他
Publication Date：2015年
Publisher：Penn State University Press

HIV／エイズケア病棟の看護

『Taking Turns: Stories from HIV/AIDS Care Unit 371』

『テイキング・ターンズ―― HIV／エイズケア371病棟の物語』日本語翻訳版あり

Author：MK・サーウィック
Publication Date：2017年
Publisher：Penn State University Press

グラフィック・メディスンの中心メンバーの一人であるMK・サーウィックによる回想録であり、1994年から2000年まで、HIV／エイズ専門病棟に看護師として従事していた日々が綴られている。死に瀕していた患者たちと接する中での交流、医療従事者と患者の境界線を越えてしまうのではないかという葛藤、緊張とやりがいに満ちた職場での時間とプライベートな時間とのギャップなど、医療従事者の繊細な心情が淡々とした筆致で描かれている。絵を描くこと、表現することを通して、心の安寧を取り戻していった体験が、やがてマンガの形式に行きつき、グラフィック・メディスンの発起人としての展開に繋がっていく。本作の制作過程は約十年もの歳月を費やした、さまざまな関係者への聞き取り調査に基づいており、1990年代のエイズ・パニックの時代を再検証するオーラル・ヒストリーの記録でもある。

2021年10月に新しい叢書「グラフィック・ムンディ」から新装版刊行。

©MK Czerwiec

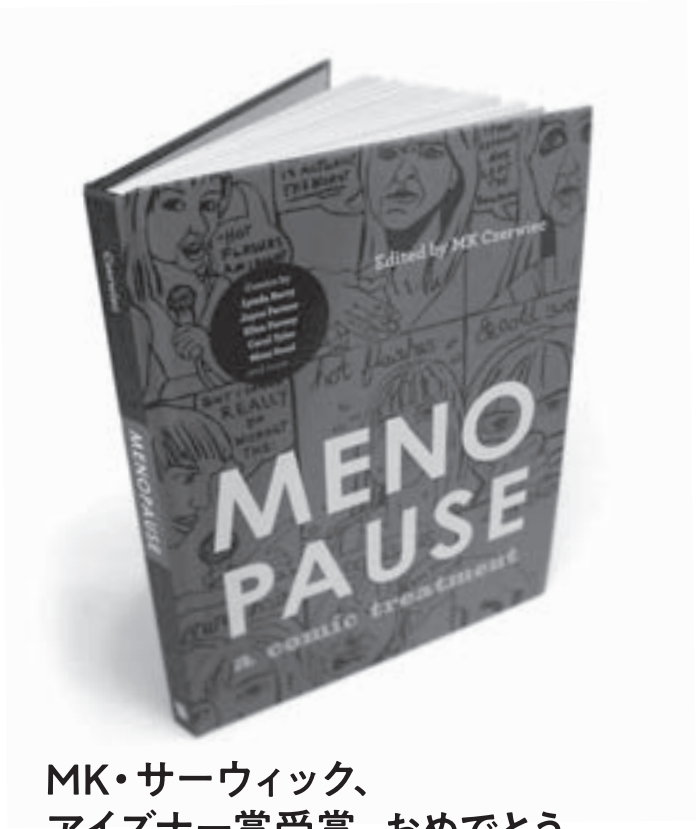
お知らせ

本誌ではグラフィック・メディスン作品や原稿の寄稿、取材企画等を歓迎しています。ご興味のある方は、日本グラフィック・メディスン協会へ会員登録をお願いいたします。

編集・制作：株式会社さいかす
責任編集：専修大学文学部　中垣恒太郎研究室
デザイン：土切顕（ash-design）

グラフィック・メディスン®　0号
2021年11月15日 発行

発行所　一般社団法人 日本グラフィック・メディスン協会
〒167-0042　東京都杉並区西荻北4-1-16-201
https://graphicmedicine.jp/



MK・サーウィック、
アイズナー賞受賞、おめでとう。

MK・サーウィックの『Menopause：A Comic Treatment』（本邦未訳）が、2021年度アイズナー賞ベストアンソロジー賞を受賞しました。
本作品はニューヨークタイムズの2020年ベストグラフィックノベルに選出されるなど、全米で高い評価を受けています。
アメリカで長年文化的タブーとして恥じらいの文脈で語られるばかりだった更年期障害を、多様なコミックアーティストの作品群を通して、笑い、肯定し、更年期障害の異なる見方を提示しています。

https://comicnurse.com/book/menopause/

グラフィック・メディスン®
Graphic Medicine
0 issue : Nobember15th 2021